

なりともそしられぬ。只心  
ひきつに、おのづからおも  
ふ事を、たばふれに書つけ  
たれば、物にたちまじり、  
ひさなみくくなるべきみ、  
をもきくべき物かばと思ひ  
しに、はづかしきなごも、  
見る人はの給ふなれば、い  
さあやしくぞあるや。げに  
それもこそわり、人のにく  
むをもよしさいひ、ほむる  
をもあしさいふは、心のほ  
ごこそおしはからるれ。た  
ゞ人に見えけんぞれたき  
や。

に、初め内大臣伊周公、中宮の御前に料紙を  
進せさせ給ひしを、中宮には此の料紙に何を  
書かましと仰せられしに、主上には、朕は司  
馬遷の著はせる史記を寫させたりと仰せられ  
けるが、女にしては然る角々しき文も相應は  
しからず、又た公の文の類も如何なれば、唯  
だ枕のやうに秘め置きて、世にも示さぬ私言  
なごの隨筆を、書き記さんは宜しかるべきや  
と申し上げたるに、さらば少納言に得さする  
ぞとて、此の料紙を中宮の下し賜はりしかば、  
盡させぬ程も多かる紙に、彼の事此の事なご  
怪しかる物語を、書き盡さんとせし程に、中

には心づきなく打ち捨つべき事も多かるな  
り。されど主として、世の中の面白き出来事  
を書き記し、又た人の愛でたしなご思ふべき  
事を撰り出で、更に歌をも加へ、鳥獸草木  
虫魚なごの類までも、筆を走らせたれば、却  
りて興を殺ぎて、今少し見所あるべしと豫期  
したるに、さても意外の不出來かな、少納言  
の筆も心も、其の底は見えたりとて、誘らる  
ゝ人もあるべけれど、己は唯だ一意専心、自  
から思ふ事を、慰みに書き記したるに過ぎざ  
れば、世間に知られたる書物ごもの中に入れ  
混せられて、人並々の物なりと言はれんこと

は、始より毫も豫期し居ざれば、固より人並以下の物たるは言ふ迄もなきに、此の草紙を見たる人々は、あな芽出たし、我等は遠く及ばざることの耻かしきよと、仰せらるゝもあらは、斯る未熟の草紙に對して、實に心得がたき事ごもなり。尤も人々の耻かしと仰せらるゝは、筆者たる己が心の邪なるまゝに、文に現はれたる詞の、常の規を脱したるに依るとせば、それは實に道理なる事にて、此の草紙の中には、人の憎むをも善しと言ひ、人の褒むるをも惡しと言へば、是非善惡を顛倒したる心の中こそ、此の草紙を見ん人の爲めに推

し量られて、最と耻かしき限りなれ。畢竟斯くも我が心の中を推し量られて、さまざまの沙汰せらるゝも、折角秘め置きたる此の草紙の、世に公になりたる故なれば、唯だ人に見られ弘まりたるこそ、妬ましさの限りなれ。

## 〔附記〕

異本には、尙ほ右の末段に「左中將まだ伊勢守と聞えし時、里におはしたりしに、端の方なりける疊さし出せし物は、此の草紙乗りて出にけり。惑ひ取り入れしかど、やがて持ておはして、いと久しくありてぞ、かへりたりし。それよりありきそめたるな

枕の草子終

新譯 枕草子 下卷終

りたりと見ゆるに、尙ほ其の後なる長保の頃ころの事ことなど、所ところ々に書かき記しされたるは、更に又またた書かき加くはへたりと見えたり。そは中宮も隠かくれさせ給たまひ、少納言も世よに衰おとろへたる後のちにて、昔むかし榮華えいげの夢ゆめの跡あとを慕したひて、其そのの當時たうじの戀こひしき思おもひを書かき加くはへられたるにても知らるべし。さればにや、年代ねんだいの前後ぜんごに依よりて此この草紙そうしに詳畧しやうりやく轉置てんちなどの異本いほん多おほき故ゆえをも了解れうかいするに足たらん

りぞぞ」と見えたり。此こゝに左中將さちゆうじやうとあるは、源經房朝臣みなもとねふさあそんにて、其そのの伊勢守いせのかみとなりしは長徳元年ちやうとくねんなるが、當時たうじ清少納言せいせうなごんの家里いへを訪おもはれし折をり、少納言せうなごんが何心なにこころなく差さし出だしたる敷しき疊たいみの上に、此この草紙そうしの乗のりて出いでたれば、慌あはて惑まどひて取り入いれはしたれど、一旦いつたん見付みつけけられたるからに、終つひに秘ひめ果はしもならず即やがて經房朝臣つねふさあそんの持もち歸かへり給たまひしが、其そのの後のち久ひさしく月日つきひを經へて、漸やり返かへし給たまへれども世よに弘ひろまりたるは、即すなはち此この時ときに始はじまるとなりさても經房朝臣つねふさあそんの伊勢守いせのかみたりしは長徳年間ちやうとくねんなれば、此この草紙そうしは其そのの時とき既に書かき終おほ

大正元年十二月十日印刷  
大正元年十二月十五日發行

定價金壹圓

著譯者 文學士 中村德五郎

大阪市東區安土町四丁目三十番屋敷

石塚猪男藏

東京市神田區美十代町三丁目一番地

富田能次

大阪市西區阿波屋二番町一番地

堀越幸

不許  
複製

發行所  
製印  
本  
署別

發賣所

東京市神田區美土  
代町三丁目一番地

富田文陽堂

電話本局二二六四番

發賣所

大阪市東區安土町  
四丁目三十番屋敷

石塚書舖

電話本局二〇二四番

270  
625

終